

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0170202733		
法人名	有限会社 フェリーチェ		
事業所名	グループホーム ドルチェ		
所在地	札幌市北区北27条西16丁目5-21 (電話) 011-756-8850		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル 3階		
訪問調査日	平成19年8月24日	評価確定日	平成19年9月19日

【情報提供票より】 (19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤14人, 非常勤3人, 常勤換算6.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	26,000 円
敷金	○有(48000円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円 ○無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または月35,000円		

(4) 利用者の概要(8月24日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	5	要介護2	4		
要介護3	4	要介護4	4		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 83, 8歳	最低	75歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	共生会(さかえまち共生クリニック)	後藤歯科
---------	-------------------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

在宅医療に取り組むクリニックとの連携が良好で、隔週の医師の往診、毎週の看護師の見守り、さらに24時間対応の仕組みと利用者の健康管理や指導に、家族も職員も安心がある。家族交流会を年2回開催し、1回は利用者、家族、職員、運営推進委員が合同でホテルで食事会とし、参加者に好評を得ている。ホーム内の開催では、親しく交流が図られ地域との連携が深まってきた。家族への連絡として、ホーム便り「優しい通信」を隔月1回発行し、ホーム全体のお知らせのほか、利用者個別の日常の姿が分かりやすい写真入りで印刷されて届けられている。更に年1度家族アンケートを実施し、家族の気持ちを受け止める体制を作っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 運営理念が分かりやすく記載されたパンフレットを作成した。個別の記録は見出しを工夫し、使用しやすく改善された。口腔内の清潔保持は日常的に食後の歯磨きの見守りや支援を励行し、さらに歯科医院の受診をしている。注意の必要な物品の保管は取り決めを徹底し安全が守られている。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4) 自己評価の各項目について全職員が見直しをし、ユニットでまとめて記載をした。具体的な改善点を話し合い、共通に把握して取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6) 初回の運営推進会議は、事業所からの報告がほとんどであったが、回を重ねることで意見が出されてきた。なお事業所の避難訓練に同席したり行事に参加して理解を深め、地域との連携がより向上した。小学校との接点が得られた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関に「意見箱」を設置しているが利用がない。事業所として年1回家族アンケートを実施して家族の協力を得、意見など集約し運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所が1軒としての町内会加入でなく、利用者一人ひとりが会員となつて会費を納入し、つながりを持っている。また、運営者は事業所の3階に居住し、町内会との連携が密である。地域の行事など可能な限り参加して交流をしている。地域の理解が深まっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で暮らすことを理念の中に盛り込み、利用者・家族・スタッフ・地域の4つの視点から独自の理念を掲げてパンフレットに分かりやすく書かれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し、日常的に確認をしてケアの基本にしている。職員はミーティングの中で話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者がホームの3階に居住し、利用者が個別に町内会員となって加入している仕組みで、町内との関係は良好である。地元の行事も可能な限り参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の記載に関して、全職員で細かく各項目を見直し、事業所としての具体的な改善点を共通に把握して取り組んでいる。		

札幌市 グループホーム ドルチェ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、単に机上のみでなく避難訓練に参加したり、事業所の行事に誘って意見をいただき、ケアの向上につなげている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は北区の連絡会議の出席や行政からの通達や連絡を重視して、日頃のケアに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム日より「優しい」通信は隔月に発行し、家族に利用者の様子を知らせている。さらに個人別に1枚作成して詳しい情報を利用者ごとに写真入りで家族にのみ送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」を玄関に設置しているが、ほとんど利用がない。事業所では、年に1度家族にアンケートを実施して協力を得て運営の参考にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や職員の異動は極力控え、利用者や職員は馴染みの関係になっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の必要性は認識しているが、時間がとれないとして立案するまでに至っていない。外部の研修には、事業所が費用負担で参加している。	○	内部研修については、職員会議など、時間の工夫をし、事業所の共通課題の研修を企画して取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所は単独の運営で関連のホームは特にない。管理者は、会議等で同業者と接触はあるが、具体的な交流の機会はない。	○	地域の同業者と連携を図り、職員間の相互訪問など実現するように取り組みを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の申し込みがあると面談、見学など納得が得られてから契約、入居の手順とし、入居後は役割や居場所の保障など配慮しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活をともに過ごすことで、家族のように馴染みとなり、支えあって学んだり利用者同士も助け合って暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日の概ねの生活リズムはあるが、一人ひとりの希望など聞いたり、会話の中に見出したり、本人本意に把握するように努めている。入浴の希望は取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事業所で本人らしく暮らせるあり方について、家族や医師とも話し合い、個別の介護計画を作っている。アセスメントシートを活用している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の記録に基づいて介護計画を見直し、3ヶ月ごとに検討している。また、状況の変化には即見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとしての機能のみならず、通院介助など日常業務として支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療に重点をおいている掛りつけ医師を確保して隔週に往診をいただいている。さらに看護師は毎週見守りに事業所にきている。24時間対応の体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の基本は、終末ケアは対応しないと決めているが、個別に家族と話し合い、条件を整えば掛かりつけ医師と相談する体制になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のミーティングの折にプライバシーを損ねないような係わり方について話し合いを重ね、取り扱いに注意をしている。特に、自己評価の際、具体的な点で深い話し合いをした。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、個別の対応に視点を置き、外出の希望など臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3度の食事は利用者と職員がともに食卓を囲み、さりげなく見守りや介助など個別に支援している。献立の希望を取り入れ、食欲がわくように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆったりとした浴室で、安全面にも配慮があり利用者の希望を優先して曜日や時間を決めて入浴をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ユニットの中でおのずと役割が生まれて自然体で生活のなかに組み込まれている。毎日のカレンダーを墨で書いている利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買物に利用者を連れて行ったり、車椅子利用者も戸外に出掛けられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は昼間は施錠することなく、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。住宅街で近隣との連携も良好である。		

札幌市 グループホーム ドルチェ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策として年2回消防署とも連絡し避難訓練を実施している。運営推進委員に参加を促している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が作成している。利用者の希望を取り入れたり、季節の料理を提供している。職員の中に栄養士の資格保持者がいて、点検をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂は日当たりが良く、明るい造りになっている。利用者にとって落ち着いた住まいとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、自分の部屋に馴染みの品を持ち込み、居心地良く過ごしている。混乱のないように氏名を分かりやすく入り口に提示している。暖房のシステムは床暖房を取り入れ、快適で安全になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。